

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.6



発行日：平成31年2月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第10回山部会まとめの会を開催しました！

1月29日（火）に第10回山部会まとめの会が岡崎市にて開催されました。昨年度までの地域部会を、より気軽に楽しく意見を言い合える場として「まとめの会」と名称を変えて実施いたしました。まとめの会では平成30年度の山部会の活動進捗報告、9年間の実績と成果の意見交換を行うとともに、今後の体制や活動計画に関する意見交換を行いました。また、話題提供として、小原木材株式会社の小原社長より、地域材活用の経緯と実績についてご講演いただきました。



日時：平成31年1月29日（火） 13:30~16:30  
場所：西三河総合庁舎7階 704号室  
参加者：20名（事務局含む）

## ◆主な意見交換内容

### 1. 平成30年度の山部会の活動進捗報告

まとめの会では、山部会の4つのテーマ（流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン）について、進捗状況の確認と意見交換を行いました。

#### ①流域圏担い手づくり事例集

- 「事例集交流会2018」を開催し、取材先の活動を知るとともに、山川海それぞれの立場から意見交換を行った。
- 交流会での意見交換で課題が明確化され、8月の合同部会開催のはこびとなった。
- 今年度は、山、川、海に関する担い手の計20団体を取材した。

#### ②山村ミーティング

- 「矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング」は12月までに半数が終わり、中間報告や今後の取材に向けた準備を開始した。
- 「矢作川感謝祭」は、流域のすべての森林組合が一堂に会して、林業等をPRした。また、東幡豆漁協が海の生き物を展示し、上下流のつながりの大切さを伝えた。

#### ③森づくりガイドライン

- 岡崎市、豊田市における新たな水循環や森づくりに関する情報提供が行われた。
- 国で新たに始まる森林譲与税と新たな森林管理システムについて、報告と意見交換を行った。森林譲与税については、流域自治体の職員より、現在の進捗状況や課題について報告を受けた。

#### ④木づかいガイドライン

- 根羽村森林組合が実施する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、年間約40箇所を訪問し、気づかい推進を展開した。
- 木づかいガイドライン策定に向けて、流域の関係機関に木づかいに関するアンケートを配布し、回答を得た。今後は、取材を通して木づかいの実績を整理する。

### 2. 山部会9年間の実績と成果

9年間の実績を確認し、成果として「できたこと」「もう少しでできたこと」「できなかったこと」を整理した（以下、抜粋）。

#### 《できたこと》

- 取材者と取材団体のつながり、取材団体同士のつながりの構築／林業従事者の現状の把握／矢作川感謝祭への参加
- 「根羽」「恵那」「豊田」「岡崎」の地域持ち回りが成し得る最新の林業施策の把握／イベントにおける木づかいの推進

#### 《もう少しでできたこと》

- 地域再生の起爆剤としての役割／流域生態系の広域評価／流域内の人材育成システム

#### 《できなかったこと》

- 流域すべての自治体の継続参加／自然生態系と人間管理生態系の最適配置についての検討／他部会との意思疎通

### 3. 平成31年度の矢作川流域圏懇談会の体制・山部会の活動計画について

平成30年度は新たな体制の試行の年となりましたが、地域部会だけでなく市民部会でも、充実した議論が行われ、大変有意義な懇談会となりました。そして、平成31年度は、流域圏懇談会設立10年目の節目の年となります。今年度の体制を基本とし、とりまとめと流域市民への発信の年とします。

平成30年度の活動をもとに、次年度の体制の例示  
（※市民部会・地域部会●：実施、←=→：必要に応じて実施）

体制・イベント			月												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
市民部会	WG 勉強会		←=→												
	まとめの会													●	
地域部会	WG フォールドワーク		←=→												
	まとめの会													●	
全体会議	話し合いの会														★
流域連携に関するイベント			●					●	●	●					

### 4. 森づくり・木づかいに関する話題提供

#### ★★地域材活用の経緯と事例紹介★★

【話題提供者】小原 淳様（小原木材株式会社 代表取締役社長）  
私は建設会社に生まれたこともあり、ずっと産業界で生きてきました。32歳で会社をつくり、仕事三昧の生活でかなり儲けましたが、稼ぐことだけでは大切なものが見えないことに気づき、38歳で会社を辞め、NPOを立ち上げました。2002年から会社の木材部門を引き継ぐとともに、2008年から「天使の森」を結成し、地域材活用と環境保全に取り組んでいます。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●平成30年度の山部会の活動進捗報告

- ・流域圏担い手づくり事例集では、信州大学の学生さんから取材への参加申し込みがあったが、日程の調整がつかず、実現できていない。この部分は実績にはならないということではよいか。(沖)  
▶ 成果は残らなかったが、学生の学びの場として山部会が担った役割は大きく、実績として残すべきだ。(近藤)
- ・安城の油ヶ淵水辺公園の開園式では、木の遊園地が設置され、市民に大変好評であった。上下流の安城市と根羽村のつながりを示す意味でも、木づかいの成果に加えてほしい。(近藤)
- ・森づくりガイドラインに関して、岡崎市では条例に基づいて水循環推進協議会を設置しており、国の内閣府水循環施策推進本部より基本法に定められた協議会として認められ、さまざまな支援を受けている。今年度は、東京でのシンポジウムで岡崎市が実績を紹介した。また、豊田市では森林の水源かん養機能についてのモニタリング事業を実施しており、地元の中学生の見学会などが行われている。さらに、林野庁に関しては平成29年度、30年度の2ヶ年計画で水源の森林づくりガイドブックを発行する予定である。(蔵治)
- ・矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングは、道半ばではあるが、報告書の作成と発表の場を設ける必要があると考えている。その機会をいつにするか、皆さんに相談したい。私としては、当事者たちが自主的に集まるお祭りの中で、勉強会と報告会を行い、お酒を飲み交わすフルコースが夏あたりにできたらと考えている。(丹羽)
- ・遅々として進まなかった山村ミーティングであるが、10年かけて何とか形になってきたという感慨深いものがあるが、成果はとても簡単に表現されている。(丹羽)  
▶ もっと血と汗と涙が感じられる文章にしていただけませんか。(蔵治)

### ●山部会9年間の実績と成果について

- ・山村ミーティングでは、平成25年～平成26年にかけて林業関係者に何度か集まる機会を設けた。しかし、継続は難しく、イベントを行う方が効果的であることが話し合われた。9年間の実績には、そのような経緯も示すべきである。(丹羽)
- ・平成27年の実績とされる上流端から河口までの小学生のツーリングについては、このような活動を流域圏懇談会として支援できればというもので、山村ミーティングの実績ではないと思われる。(洲崎)  
▶ この活動は、4つのテーマには入らないので、「その他」の項目を設けてはどうか。(蔵治)
- ・森の健康診断は、流域圏懇談会の初期の頃には部会の活動として行われていた。この活動も4つのテーマには属さないが、流域内の森づくりというのは重要な活動なので、「その他」の項目に残してほしい。(蔵治)
- ・森づくりガイドラインも、いろいろ試行した経緯があり、流域内の主な森林・巨木について議論したことがあるが、ここには記載されていない。(蔵治)
- ・森づくりや木づかいの実績として、荒山林業や天竜川のいかだ下りの視察も掲載してほしい。(洲崎)

### ●平成31年度の矢作川流域圏懇談会の体制・山部会の活動計画について

- ・次年度は懇談会設立10年という節目の年となるが、社会背景とともに、この懇談会あるいは山部会の各テーマも設定当時の目的とは変化している可能性がある。そこで、次年度は社会的背景を含んだ流域圏懇談会の10年を年表に整理してはどうか、さらに言えば懇談会設立前の10年、20年を加えるとよりわかりやすいと思う。(事務局)  
▶ 山部会は、過去にさまざまな山の関係者を交えて議論を行ってきた。しかし、その内容については個別の懇談会通信に分かれてしまい、まとめられたものがない。それらについても、年表で整理すればわかりやすいものとなるはずだ。(近藤)
- ・2014年までの流れは、「森の健康診断の10年」という本にかなり詳しく掲載されており、この懇談会についても記述している。是非、参考にしてほしい。(蔵治)
- ・テーマの議論と9年間のまとめを並行して行うことは、通常のWGでは時間が足りない。WGの進め方については、事務局でもう一度議論いただきたい。(蔵治)

### ●森づくり・木づかいに関する話題提供について

- ・講演をお聞きして、利潤を第一の目的としないソーシャルビジネスに近いイメージをもった。(筒井)
- ・地域材の利用を反対していた社員をどのように説得したのか。(丹羽)  
▶ 社会背景の変化と自らの行動によって、長い時間をかけて反対派の意識改革を図った。(小原)
- ・林業行政は都道府県の縛りが強くて、集水域という概念が低い。その点は、どのように意識されているか。(蔵治)  
▶ 地域材としては県レベルを考えている。岡崎産材とは試験的なものにとらえている。(小原)



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

